

# 学校だより

平成29年7月発行 鳥羽商船高等専門学校  
広報・公開委員会「広報誌専門部会」  
三重県鳥羽市池上町1番1号 TEL 0599-25-8013



入学式



新入生オリエンテーション



新入寮生歓迎BBQ

- 校長挨拶
- 学科紹介
- 高専ロボコン2017
- 学生活動の紹介
- 商船学科乗船実習・遠洋航海実習
- 国際交流
- 教育改革3室の制定について
- 新任教職員紹介
- 学校通信

# 校長挨拶



校長 林 祐司

平成29年4月4日に行われた入学式では、本科入学者は商船学科、電子機械工学科および制御情報工学科で合計128人、そして専攻科生産システム工学専攻進学者11人を合わせると139人の入学・進学者となり、創学136年の歴史に、新しい1頁が書き加えられました。

入学式の式辞でも申し上げた「志(こころざし)」について、ここでもう少し書き加えてみます。

図2の石組は、その家の小さな庭いっばいに造られた日本列島を模した大きな石組で、弱冠十数歳の弥太郎少年が日本に雄飛する夢を託して自分で造り、縁側から日々眺めていたといわれています。キラ星のごとく偉人を輩出した明治維新の大舞台では、主役を務めることがなかった岩崎弥太郎翁ですが、後の明治の新しい国造りでは、日本経済界の中心人物として世界経済と連携する海運業を中核にして大活躍をしました。

生家の縁側から見た日本列島の石組は、その方位が正しく造られているのは、私の驚きでした。縁側(シベリア側)から見た日本列島は、弥太郎少年にとっては、「夢」、「希望」、「志」の塊であったにちがいありません。新入生の皆さんが、この石組を造るとすれば、差詰め世界地図といったところでしょうか。

大きな「志」は人の成長を支えてくれます。まるで北半球を航海する船には、不動の天体である北極星があるように、「志」は人の進むべき道を正しく指し示してくれます。新入生の皆さんも、できるだけ早い時

期に「志」を定め、ブレない学生生活を送ってください。

正課と課外活動は学生の特権で、今の時期こそ、頭と心と身体を鍛えて鍛えてください。それをもってして大舞台に続く社会の入口へ舳先(へさき)を向けて、好奇心と注意力と謙虚さを持って進んでください。その後の人生で困った時や悩んだ時には、学生時代に立てた「志」がきつと皆さんを支えてくれることでしょう。くじけず、あきらめずに「志」を追い続けてください。全速前進ではなく、中速前進で「が・ん・ば・れ・!!」。皆さんの人生は、まだ始まったばかりです。



図2 弥太郎少年が造った日本列島の石組



図1 岩崎弥太郎翁の生家



## 商船学科について



商船学科長

伊藤 友仁

商船学科のある高専は全国に5校あり、三級海技士の第一種養成施設として外航船員となる人材を育成することを目的としています。商船学科の就業期間は5年半で、その間に3回の大型練習船実習（2年生1ヶ月、4年生5ヶ月、6年生6ヶ月の合計12ヶ月）が行われます。本校の学生は3年生から航海コースと機関コースに分かれ専門的な勉強を深めます。座学（授業）以外では校内練習船「鳥羽丸」をはじめ、各種シミュレータ（航海コースの操船シミュレータ、レーダ・ARPAシミュレータなど）や多種船舶設備（機関コースの船用エンジン、蒸気タービンなど）を教材として実践的教育を行っています。

次に最近の海運業界と進路状況の概略を述べます。外航海運に関しては、中国の経済成長鈍化と金融緩和による船舶建造ラッシュの結果、海運市況は低迷を続けましたが、冬以降は改善傾向にあると思われます。このような状況下で、海運大手企業のコテナ船事業の統合・新会社設立が発表され、外航海運の新しい動きが期待されます。一方、内航海運では陸上からエコな海上輸送へのモーダルシフトがいつそう進み、船員の需要が増えています。各企業から本校にいたたく求人の数について、外航船社は微増であるのに対し船舶管理および内航船社は明らかな増加傾向が認められます。実際の学生の就職状況は内航船社が最も多くなっています。また、最近は何国を挙げて海洋立国を目指す傾向が認められます。現状の船員養成

に加えて、将来は海洋資源などに関連した技術者の育成を本校が担うかもしれません。

変化が激しい昨今の海運業界では、付加価値の高い船員が望まれています。本校で海事技術者としての基礎をしっかりと身に付けた学生は、将来必ず船員になれると思います。商船学科の学生に特に望むことは、日々の学業を通じて海事技術者になるための土台を作ることです。特に低学年は、基礎科目（英数国理社など）を、毎日勉強する習慣を身に付けていただきたい。課外活動などで心身ともに鍛え、将来の船長・機関長を目指してもらいたいと思います。



校内練習船「鳥羽丸」

## 電子機械工学科の紹介



電子機械工学科長

古森 郁尊

電子機械工学科では、あたりまえの日常を支えることに誇りを持つる人材の育成を目標として、機械系・電気電子系・制御・計測技術・情報系に関わる専門分野を学びます。

求人企業は、電機・電力産業、自動車関連産業、航空機などの交通機械産業など幅広い分野から、多くの募集があります。6月1日が過ぎて、就職先が決まる学生も多く出てきている時期ですが、まだ新しい求人が来ている状況です。ここで、採用試験では、基礎学力が試され、また面接ではプレゼンテーションやコミュニケーションの力が試されます。

電子機械工学科では、低学年では、専門科目の基礎や数学や物理など基礎学力を付けるためのカリキュラムとなっています。一方、高学年では、論理的なもの考え方、発表の仕方・伝達の大切さを学ぶため、多くの学生実験を準備しています。例えば、学生がチームを組んで実験テーマを選択し、学生自身が実験計画書と実験手順書を作成し、より能動的に学生実験に取り組むなどです。

授業とは別に、アイデア対決ロボットコンテストへも取り組んでいます。昨年は、東海・北陸地区大会予選を突破し全国大会出場を果たしました。今年も、全国を目指し、見ていて楽しいロボット創りに学生達が励んでいます。

本学科から進路の選択肢は、君たちの想像以上にたくさんあります。いろいろ苦しいこともあると思いますが、自主的・積極的に行動し学生生活を送ってください。

## 制御情報工学科の紹介



制御情報工学科長

出江 幸重

本年4月より制御情報工学科長を拝命しております出江です。よろしくお願ひします。また、今年度から土田先生が学科の新戦力として、教育・研究に尽力いただいております。

制御情報工学科の現状について簡単に紹介します。制御情報工学では、3・4年生の創造実験において、学生自身が自主的・能動的に自ら体験しながら学んでいくPBL型の実験を行っています。これは制御情報工学科の最大の特徴といえます。創造実験では、3・4年生が学年の枠組みを超えて、チームで協働して活動します。そのチームの多くは、外部コンテストに出場し、大きな成果を挙げています。

昨年度の最大の成果は第27回全国高専プログラミングコンテストの自由部門で最優秀賞および文部科学大臣賞を受賞したことです。また、第27回の全国大会は本校が主管となり、制御情報工学科の教員および学生が中心となり運営を行いました。学生は3～5年生の約120名が参加し、制御情報工学科の学生の力を再認識いたしました。

その他の成果としては、高専向けC言語組込開発コンテストで最優秀賞および優秀賞、高校・高専 気象観測機器コンテストで最優秀賞および優秀賞、ImagineCup 日本大会で部門賞、Hack U 2016で優秀賞（3件）などの受賞です。このように、多くの大会で制御情報工学科の学生が活躍しています。

## 一般教育科の紹介



一般教育科長

富澤 明

本校の一般教育において技術者としての基本的な資質と専門科目を学ぶための基礎学力を養うため、一般教育科では、次の教育目標を掲げています。

- 一、健康で教養豊かな社会生活を送るための基礎的な力を培う。
- 二、専門科目を学ぶための基礎的な力を培う。
- 三、多様な文化に目を向け、国際社会で活躍できる基礎的な力を培う。

本校の学生は、人文・社会系科目、自然科学系科目、保健体育、芸術及び外国語という広い分野にわたり、高等学校のレベルから大学の教養課程のレベルまで、5年間の一貫教育のもとで一般教育科目を履修します。

今年度の一般教育科では、英語担当の1名が在外研究員で、社会担当の1名が内地研究員で不在していますが、新しく、数字担当と寮監の2名の教員を迎え、14名の教員が、非常勤講師の助けを借りて一般教育科目を担当しています。

新しい教育課程への移行が始まって3年めを迎えました。この後2年間をかけて、学年進行で新課程に切り替わります。新教育課程は、全国の高専における共通の学習項目を定めたモデル・コア・カリキュラム(MCC)に準拠しています。特に自然科学系の科目では、専門科目と連携して内容が考慮さ

れたものになっています。また、新課程では「一般基礎教育」科目が新設されました。この科目は、技術者に求められる社会人基礎力を培う部分と、英語、数学、理科等の基礎学力を培う部分とで構成されていて、1年生の1年間と2年生の前期で学びます。1年生

では本校での学生生活が順調に始まり、学びを継続できることを、2年生では学びの持続的発展と社会人としての視野を広めることを意図した授業を目指しています。この科目では「10代から学ぶパーソナルファイナンス」(日本パーソナルファイナンス協会)、「法教育出前授業」憲法について考えよう(三重弁護士会)、「KDDIスマホ・ケータイ安全教室」、「デートDV防止啓発講座」(鳥羽市役所)など、他機関

から講師を招いての授業も実施しています。その他にも、英語多読学習等、多彩な取り組みがなされています。

学生の皆さんには、未来の技術者となる自身に何を求められているか、を考えたがらの学びをお願いします。そして、本校での学びの環境を存分に活かしてください。



## 専攻科の紹介



専攻科長

宮崎 孝

本校専攻科は、2年間の教育課程を修了し、学位授与機構の審査に合格することで、四年制大学を卒業したのと同等の学位を取得することができます。昨年10月に新しい審査方式で初めての海事システム学専攻修了生が出ています。

専攻科においても、入学者受け入れ、修了認定、教育課程編成の三つの方針が明確化されました。本校専攻科では、専門分野におけるより高度な開発・創造能力、複合的視点から物事を考え解決する能力を持ち、国際的な感覚がある自律した技術者を育成しています。

そのためのカリキュラムでは、特別研究と実験実習が柱となっており、生産システム工学専攻では、新しいPBL型FAシステムの実験が4年目となります。昨年度は植物育成・出荷の模擬システムをテーマに実験に取り組みました。また、オムロン(株)から講師を招いたFA講習会を鈴鹿高専と連携し、鳥羽と鈴鹿でそれぞれ一回開催しています。オムロンと高専機構が共催の生産技術コンテストにも参加していますが、昨年度は惜しくも準優勝でした。

本科の新しいカリキュラムが高学年まで進んでいますので、それを受けて専攻科でもカリキュラムの見直しを進めていく予定です。



# 高専ロボコン2017が 伊勢で開催されます！

平成29年度東海・北陸地区大会

競技委員長

古森 郁尊

鳥羽商船高等専門学校がホスト校となり、30回という節目の大会の東海・北陸地区予選を、三重交通Gスポーツの杜伊勢で10月15日(日)に開催します。

速さや強さだけを競う競技と違い、発想力や独創力を競うことを目的に、1988年から始まった高専ロボコンの正式名称は、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」です。全国の高等専門学校57校62キャンパスから124チームが北海道・東北・関東甲信越・東海北陸・近畿・中国・四国・九州沖縄で開催される地区大会に参加し、そこで選ばれた25チームが全国大会に進みます。

ロボコンのチームは、チームメンバーとピットクルー、指導教員で構成されます。チームメンバーは、競技フィールドでのロボット操作を担当します。リハーサルでは、澄ました顔でロボットを操作していますが、本番では、写真左側のようにスポットライトを浴

び、緊張しながらTVに映るスタッフです。ピットクルーは、競技場後方に控えています。競技を行ったロボットは、どこかに不具合が出ます。原因を見つけ出し、修理し調整する重要なタツプです。

鳥羽でも、学生と指導する先生が一緒にあってワイワイ議論(言い合い?)しながら取り組んでいます。昨年は、写真右側にあるアイデア賞を受賞し全国大会出場を果たしました。



## 今年のロボコンは競技方法が 対戦型となりました！

今年のテーマは、「大江戸ロボット忍法帳」です。今までは、対戦チームがそれぞれ競技フィールドに分かれて、戦ってきました。

今年の競技は対戦型となり、4台のロボットが同じフィールド内で様々なアイデアを駆使し、自分の陣地にある風船を守りながら、ロボットに付けられた風船を割り合います。ロボットには風船が5個ずつ、チームの本陣にそれぞれ10個ずつ風船が取り付けられます。相手チームの本陣、または相手ロボットのすべての風船を割ると勝利となります。「人の手が届かないような位置にある風船をロボットがどのように割るのか?」「動いている相手ロボットの風船を正確に割る技術とは?」「各チームが風船を割るために準備した「秘密道具」とは?」など、ロボットの多様性が高まる競技課題です。

会場の熱気を感じ、学生の活躍やロボコンの面白さを直接見に来てください！

## 学生活動の紹介

### 吹奏楽部の紹介

電子機械工学科5年

奥野 響介

吹奏楽部です！部員は全員で25人です。主に図書館棟一階で練習しています。水曜日に合奏、木曜日に部内発表、ほかの日は自主練習・パート練習です。部内発表では合奏で練習する曲とは別に、いろいろな学年やパートによるアンサンブルやソロ演奏の発表をしています。毎週木曜の5時からしているのですが、ぜひ聴きにきてください！

主な部活の活動は、入学式や卒業式での演奏、海学祭での演奏会、学外でのボランティア演奏です。写真は今年度の4月にボランティア演奏をしたときのものです。喜んで頂いたので次回も企画しています。自分のペースで練習を進められる部活です。興味のある人はぜひ気軽に体験に来てください！！



### 水泳部

商船学科5年

松浦 一真

水泳部は部員30人程度が所属している部活です。5月上旬から東海地区の高専体育大会にむけて本格的な練習を開始します。近年は毎年、全国高専体育大会に出場しており、部員同士で切磋琢磨に練習に励んでいます。オフシーズンは筋力トレーニングやランニングを行い、月に一度鈴鹿スポーツガーデンで練習します。初心者から経験者まで幅広く所属しているので、経験者は自分で練習メニューを組み、初心者は経験者から学びながら、学生間で自主性をもって取り組んでいます。そのため、自由度の高い雰囲気のある部活です。

今年度は鳥羽商船で高専大会が開催されるため、自分達の練習もしつつ、大会を無事に終えることが出来るように、活動します。



### ロボコン部の紹介

電子機械工学科4年

嶋田 悟空

ロボコン部は毎年10月に行われるアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテストに出場するロボットを制作する部活です。

ロボコンでは毎年NHKから出される競技課題をクリアするためのさまざまなアイデアを考えクリア出来るロボットを制作していきます。

制作には設計、加工、回路、プログラム等の作業があり、それぞれをみんなが分担し、学科や学年など上下関係なく協力してロボットを制作していきます。

昨年のロボコンでは全国大会出場ができ、今年も全国大会出場を目指し頑張っていきたいと思っています。一方、観客を沸かせるようなユニークなロボットを作ってみたいという思いもあり、そのあたりがなかなか難しいところでもあります。

今年度は地元開催ということもあり、プレッシャーを感じつつも、良いものを作ろうと努めています。皆様の応援よろしくお願ひします。





## 気象文化大賞

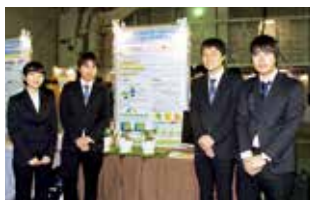
### 「第6回 高校・高専」

### 「気象観測機器コンテスト」で

### 最優秀賞と特別賞を受賞

平成28年11月19日に開催された「高校・高専気象観測機器コンテスト」において、制御情報工学科5年生と4年生から構成される2チームが、本選参加35校の中から最優秀賞（全国1位）と特別賞（3位相当）を受賞しました。

最優秀賞となった「葉1℃グラフィイー（はーとぐらふいー）」は、スマホにサーモグラフィを接続し植物の体温（葉温）を測定することで「植物がどれくらい水を



欲しがっているか」を誰でも簡単に把握できるスマホアプリです。観測システムとしての完成度が高く実用性が期待できる点で高く評価されました。

優秀賞の「海色（うみいろ）」は、超小型の分光器を使用して海中の光を測定するシステムです。海の色から海洋気象を観測するアイデアと予備実験に裏付けされたシステムの有効性が高く評価されました。



## NIHARO 組込開発コンテストで 最優秀賞・優秀賞を受賞

制御情報工学科5年

堀田 奈那

私たちは「ミエトワール」と「ハイテクリーナー」を開発し、2つのチームが高専生向けNIHARO組込開発コンテストに参加しました。

ミエトワールは、レーザーポインタを用いて夜空の星と星を順番に示し、星座の観察を支援するシステムです。独自性と汎用性が評価され、最優秀賞を受賞することができました。

ハイテクリーナーは、モータを搭載したホワイトボード消しロボット車であり、ホワイトボードに書かれた文字を自動で消してくれるシステムです。カメラセンサを用いた独自の機能が評価され優秀賞を受賞することができました。

このコンテストに参加したことで、チームで作品を開発する苦労や楽しさを知ることができ、新たな知識や技術を身につけることができました。参加した2チームとも、このように素晴らしい賞を頂け、また貴重な経験ができたことを嬉しく思います。



## 第6回小水力発電アイデア コンテストで高山市長賞受賞

電子機械工学科 4年

山村 駿

3月26日に岐阜県高山市で行われた、「第6回小水力発電アイデアコンテスト」に参加し、私たちのチームは市長賞を受賞しました。東海北陸の7高専が参加するこのコンテストでは、各水路に合った水車の発電方法、発電された電力の地域に合った利用方法等を提案することを主

としていきます。私たちのチームは、「半密閉型上掛け水車」と、「自動制御型散水装置」を設計・製作しました。水車は、昨年の発電量がほぼゼロであったことから、「とにかく発電したい！」と考え発電力重視で制作しました。その結果、355W/MHを発電し、発電量・発電効率ともにNo.1になることができました。これが市長賞受賞に大きく関係したのだと思います。今大会では、地元工業高校やデンソーチームからのオープン参加もあつたため、多方面の方との交流にもなり、技術力・発想力を養う良い体験となりました。



## ISECON(情報システム教育 コンテスト)で社会貢献賞を受賞

日本マイクロソフト株式会社

島影 瑞希

キャンシシステムアンドサポート株式会社

藤田 梓

2017年3月11日、私たちは情報処理学会主催の情報システム教育コンテスト(ISECON2016)の本審査において社会貢献賞を頂きました。応募アイテムが「Office365での視覚障害者自立・就労訓練のための学習支援システムの構築」であり、就労可能な年代でありながら、十分な就労訓練を受けられない視覚障害者をサポートするための遠隔学習支援システムを提案しました。Office365というクラウドサービスを用いて、視覚障害者と支援員の間で、学習課題実施状況の管理、遠隔からの指導や学習へのフィードバックを実現します。本コンテストでは、地域格差を抱える視覚障害者が自宅でも訓練を受けられるという、障害者雇用のニーズに対応した教育支援システムをクラウドの活用で実現した点を評価していただきました。



# 商船学科乗船実習

## 大型練習帆船「日本丸」での乗船実習を体験して

商船学科航海コース3年 安部 豊

私達は2年生の春休み1ヶ月乗船実習を行いました。今回の乗船実習は本校練習船である「鳥羽丸」での実習ではなく、大型練習帆船「日本丸」に乗船して行いました。日本丸での乗船実習では広島商船や富山高専の学生も同時期に実習を行いました。

初めての長期に渡る船内生活に少々戸惑いましたが、1週間後には他校の学生とも打ち解けて仲良くなりました。日本丸の乗組員の方々はとてもユニークで、優しく、厳しく指導して下さいました。

乗船実習が始まる前は1ヶ月がとて長いものだと思っていました。気が付けばあつという間に終わってしまいました。船酔いと闘いつつも怒られながら様々な事を学んだ実技授業や、計画を立てることが楽しかった。上陸などたくさんさんの思い出を作ることができました。1ヶ月という短い間ではありましたが、すごく貴重な経験となりました。次の大型練習船実習が今から楽しみです！



## 初めての大型練習船実習

商船学科機関コース3年 新井 尊

私達は今年の春、初めて大型練習船で実習を行いました。本実習は1か月で入学から卒業まで五年半の間にあたる三回の実習の中でも最も短いものですが、長くても一泊二日の鳥羽丸実習しか体験したことのない私たちにとっては慣れないものでした。土日を問わない規則正しい生活は私にとって健康的で丁度良かったです。

私は実習前から機関コースを志望していたので、日本丸のエンジンを見て、とても強い衝撃を受けました。今までは教科書や授業などで、大型船のエンジンの写真などを見たことはありましたが、実物は写真とは比べ物にならないほど大きいものでした。将来、これより大きなエンジンを動かすのかと思うと『ヤル気』が出てきました。私は現在機関の専門科目を受けはじめ次の実習に向けて頑張っています。

今までは将来に對して明確な夢もなく、ただ漠然と機関士になりたいと思っただけですが、この実習は私の将来に、具体的なイメージを与えてくれました。



## 帆船・日本丸での乗船実習

商船学科航海コース5年 木村 謙太

私たちは4年生の後期に練習船「日本丸」で5か月間の乗船実習を行いました。乗船実習は普段の陸上生活とは異なり、時間の規定や、班での行動、航海当直などの規律や協調性が求められ、非常に過酷な毎日でした。遠洋航海中は毎日変わらない景色、雨の日も風が強い日も外で当直、船は常に傾いており、最大横傾斜角は35度まで傾いた日もありました。水の使用量は制限され、お風呂に関しては、清水は風呂桶一杯まで、湯船は海水の毎日でした。しかしそんな過酷な毎日をやり遂げることができたのは仲間が存在があったからです。共に助け合い、支え合い、励まし合い、高め合える最高の仲間がいたからこそ日本丸実習を無事に終えることができました。私たちの航海はまだまだ

これからです。日本丸で培った経験を無駄にせず、最高の仲間と共に再び大海原に繰り出します。



遠洋航海中の帆船・日本丸

## 「機関士としての基礎を身につけた銀河丸実習」

商船学科機関コース5年 福田 直倫

私は4年生の10/1から2/28まで練習船・銀河丸にて乗船実習を行いました。練習船には2年生次にも一ヶ月間乗船しましたが、今回は機関コースとして乗船だったので学校で学んだ専門の知識を活かし実習に取り組みました。

今回の実習では初めて0-4などの夜間当直に入りました。夜間当直に入ることによって24時間、常に機関士や航海士によって安全に運航されていることを改めて実感しました。4時間の当直中は見回りから始まり、計測、定常作業、引継ぎなどがあり長いようでも短く感じました。また数多くの当直をこなしていくうちに主機や補機の普段の表情が分かってきました。普段の表情を知ることで機器の些細な変化や異常に気付けるようになりました。

実習を終えて、私自身の未熟さを痛感しました。今回得た知識や経験を基に、学校でより一層の専門知識を身につけ来年の乗船実習に備え、将来は一人前の機関士として活躍したいと強く思いました。



機関科2班の仲間達（銀河丸にて）



# 国際交流



## MELキャンプに参加して

制御情報工学科3年

荻野 竜輝

MELキャンプは3月中旬に行われます。私がシンガポールに到着してから最初に思ったことは、暑いということでした。3月のシンガポールは1年で最も暑い時期です。

シンガポール国内では様々な場所に行く度に日本と違う事を発見できて楽しかったです。例えば、高低差が少ないので平坦な道が多く、電車の駅はどれも規模が大きかったことを覚えています。

最初の3日間はSPで語学研修をしました。発音や自己紹介などを練習し、分からない事はSPの学生や先生がとても分かりやすく丁寧に教えて

てくれました。発音の練習では「r」と「l」の発音の違いなどが印象に残っていて、普段から英語を使っている人達だから分かるようなシンガポールならではの訛りや言葉も教えてもらいました。

次の2日間は、会社訪問や観光に出かけました。その後の4日間は豪華客船に乗り、MELクルーズに参加しました。船内ではテーブルマナーや船内見学、ショーや食事、キャンプテン主催のパティーなど、将来船乗りになる人のためにとても充実したイベントが行われました。

私はこのMELキャンプが初めての海外で、最初はとても不安でしたが、シンガポールで出会った人達はみんな親切で優しく、人見知りをしてしまう私でも安心して話すことができました。

MELキャンプに行こうと思ったきっかけは担任の先生と親に勧められたからという些細なものでしたが、行ってみて楽しかったし、「英語を使うこと」や「異国の文化を知ること」など将来に活かせるような経験になりました。



## KCCC 国際インターンシップに参加して

商船学科機関コース4年

松井 海斗

ハワイでは戦争によって20年程ハワイの言葉や文化について話すことや伝えることが禁止されていた時期があり、その失った言葉や文化を取り戻そうとしていることを学びました。日本はこのようなことを体験したことがないのでハワイの人達の心情はわかりませんが、恐らく自分の一番大切なものがなくなつたような心境だつたと思いました。だからハワイの言語や文化を大切に、なくならないように子供達や私達にも伝えてくれたのだと思いました。

人との繋がりはすごいと思いました。もし最初にホクレアというカヌーを見つけていなければナマホエは完成することはなかったし、このインターンシップもなかったし、ハワイの人達にも出会いませんでした。私がこのインターンシップに参加したのも沢山の人の繋がりによって形成させられていることがわかり、多くの人に感謝しなければいけないことだとわかりました。

だから私はこのハワイで会った人達のことや文化のこと、たくさん思い出を親や友達に伝えたいと思いました。

そして助け合い (help each other) も大切だと思いました。私は英語が全く出来なくて、何言っているのかわかりませんでしたが、友達や教官が教えてくれてわからないまま事が進むことがなかったです。またハワイの人達は表情優しく、わかりやすく教えてくれました。私は1人では絶対に生きていけないということに改めて気づきました。だから私は人との付き合いを大事にし、困っていたり、わかっていない人がいれば優しく教えてあげたいと思います。



## 教育改革に向けて

高専においては、昨年3月に文部科学省から有識者会議による提言「高等専門学校の充実について」が公表されました。その中では、高専が育てる人材を中堅技術者ではなく実践的・創造的技術者とし、「モノづくり」だけでなく、「コトづくり」にも貢献できる技術者の養成が求められています。また、2019年度からは専門職大学が創設されますので、高専の良さとブレゼンスをいかに示すかが喫緊の課題です。

また、2015年夏の学校だよりで紹介しましたモデルコアカリキュラム（MCC）が、2018年度からは全国の国立高専の全学科で本格導入されますし、3年生終了時に実施される学習到達度試験にはCBT（Computer Based Testing）が導入される予定で、高専生としての学習到達目標の達成度が問われることとなります。

すなわち、高専生としていかに社会が必要とされる人材を輩出できるのか、各校の教育力が問われていることに他なりません。そこで本校では、入学した学生の学力定着と向上をしつかりと支援し、入学から就職までの歩みと成長を支援し、そして海外でも活躍できる学生に育てることを基本に据え、今年度より3つの室を新設しましたので、簡単に紹介いたします。

## 学修推進支援室

学修推進支援室長

石田 邦光

本室は、教務主事を室長とし、各学科および一般教育科から選出されたメンバーで構成されており、以下の業務を行い、学生の学力定着と向上を支援していきます。特に、数学、物理といった専門科目履修のために必要な基礎学力定着の支援に注力します。

- ① 学生の学力向上に関すること。
- ② 学生の学修を支援するために必要な方策の検討及び実施に関すること。
- ③ 教育改善に関する調査・研究に関すること。
- ④ 授業改善計画の立案、実施、評価及び再構築に関すること。
- ⑤ 教員の資質向上に関すること。

## キャリア教育推進室

キャリア教育推進室長

坂牧 孝規

本室は、学生主事を室長とし、各学科長等をメンバーとして構成されており、以下の業務を行い、学生が本校入学時から卒業後社会で活躍する姿を思い描けるように支援するとともに、学生が豊かな学生生活を送ることができるよう、キャリア教育の充実に努めて参ります。

- ① 本校におけるキャリア教育の設計、改善、実装に関すること。
- ② 学生のロードマップ（将来構想）に関すること。
- ③ 就職及び進学に関する情報の収集及び提供に関すること。
- ④ 就職のための指導と支援に関すること。



## グローバル教育推進室

グローバル教育推進室長

橋爪 仙彦

本室は、これまで活動を続けてきました国際交流推進室をより活動範囲の広い組織に改編したものです。海外留学プログラムや海外からの学生受け入れ、また留学生への対応などの事業を引き継ぐとともに、学内のグローバル化を推進します。以下の業務を担い、学生の英語力の向上にも力を注いで参ります。

- ① 学生及び教職員の英語力向上に関すること。
- ② 国際交流プログラムに関すること。
- ③ 学内におけるグローバル化推進に関すること。
- ④ 留学生の受入れ及び指導に関すること。
- ⑤ 海外の機関との交流及び連携協力に関すること。



# 新任教職員紹介

商船学科航海コース  
一等航海士

田村 一夫



今年の1月から、鳥羽丸の一等航海士を務めています。田村一夫といひます。

本校のすぐ近くの伊勢市出身で、平成10年に商船学科航海コースを卒業しました。こちらに来る前は鳥羽を基地として、伊勢湾に入港してくる巨大船のエスコートを行う警戒船で働いていました。毎日学校の前を通勤していたのですが、母校に帰って練習船で航海士をするなど考えた事も無かったので、とても不思議な気持ちです。

私のこれまでの経験を伝える事で、皆さんの悩みや不安に思っていることを少しでも減らしていけたらと思っっています。いつでも気軽に声をかけてください。

制御情報工学科

土田 隼之



本年度4月から、制御情報工学科の助教に就任いたしました。土田と申します。博士号取得後、3月末まで、日立製作所で研究員として5年勤務し、最先端の研究(大規模国プロでの東大共研)や幅広い会社業務(研究成果の製品適用、特許執筆、海外出張や海外電話会議など)を経験しました。

私は、兵庫県の明石高専出身なのですが、三重県や鳥羽はこれが初めてで、「高専の懐かしい部分」と「鳥羽の新鮮な部分」の両方があります。専門分野では、授業・卒研・プロコン競技部門の指導教員など担当します。ので、学生と切磋琢磨し、高め合えれば良いと思っっています。どうぞよろしくお願ひいたします。

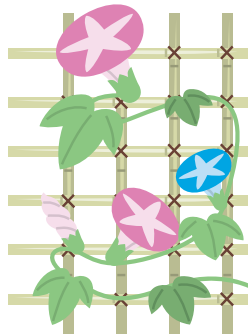
一般教育科

勝 福代



4月1日より一般教育科に所属している勝福代と申します。これまで日本や海外の学校で国語・日本語教育等に携わり、多くの生徒さんが新しい学びや多様な経験を通して、成長する姿を見てきました。

現在は寮関係の仕事を中心にやっていいます。鳥羽商船の皆さんも入学時の目標を忘れず、自分の可能性を信じて頑張っしてほしいです。そのような皆さんの成長のお手伝いができれば嬉しく思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。



一般教育科

田中 秀幸



4月より一般教育科の助教に就任いたしました。田中秀幸と申します。生まれは伊勢志摩地区で、高校卒業からは県外で暮らしてきました。このたび縁があつて鳥羽商船高専にお世話になることになり、いわゆるUターン就職という形となりました。専門は数学で、前職の大学では確率論を教えていました。教える対象が大学生から高専の低学年に変わり、まだ慣れないところも多いですが、数学の大切さ・楽しさを伝えていけるように頑張ります。

前職の大学では確率論を教えていました。教える対象が大学生から高専の低学年に変わり、まだ慣れないところも多いですが、数学の大切さ・楽しさを伝えていけるように頑張ります。

総務課長

鶉野 晃弘



平成29年4月1日付で総務課長として着任しました。鶉野晃弘(うずらのあきひろ)と申します。着任前は、鳥羽商船と同じ独立行政法人国立高等専門学校機構の全国的には金魚で有名な奈良県大和郡山形市にある奈良高専の学生課で教務事務を担当していました。また、採用は、山口県周防大島町にある大島商船です。このたび同じ商船高専に着任したことに「縁」を感じています。

高専は、実践的な人材を育成するユニークな高等教育機関であり、アジア諸国からは、この高専という教育システムに高い評価を受けています。今後、皆様と協力しながら「KOSEN」が世界共通語となるよう精進したいと考えておりますので、どうぞ、よろしくお願ひいたします。

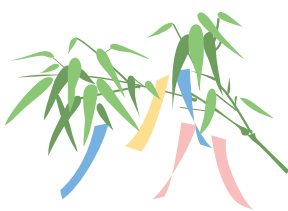
テクノセンター

渡邊 陽平



平成29年4月1日付でテクノセンター技術職員に着任いたしました。渡邊陽平と申します。私は平成27年度に三重大学工学部機械工学科を卒業した後、大学院に進学して民間企業への就職を目指していましたが、その後、進路を変更し大学、高専等の技術職員を目指していただくことになりました。

大学時代の経験を活かして、少しでも学生の支えになれるよう努めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。



## 平成28年度卒業証書、修了証書授与式を挙行

平成29年3月12日(日)、平成28年度電子機械工学科・制御情報工学科卒業証書授与式並びに生産システム工学専攻修了証書授与式を挙行了しました。

新田校長から電子機械工学科38名、制御情報工学科41名へ卒業証書が、専攻科生産システム工学専攻10名へ修了証書が手渡されました。

式の最後には校歌斉唱が行われ、卒業生・修了生を祝福しました。

卒業生・修了生は、鳥羽商船高専での思い出を胸に、晴れやかな姿で本校を巣立っていきました。



## 公開講座・出前授業実施

### 公開講座一覧 サイテクランド in 鳥羽商船高専

講座名称	開催日時
ソーラーで動くおもちゃ工作	8月9日(水) 13:00~16:00
3Dプリンタでオリジナルスマートフォンスタンドを作ってみよう	8月23日(水) 9:30~15:30
手作り振動型発電機を作ってLEDを光らそう	8月22日(火) 9:00~12:00
電気を測ってオームの法則を確認しよう	8月22日(火) 14:00~16:00
IchigoJamでマイコンプログラミング(U16プログラミングコンテスト三重大会事前講習会)	8月16日(水) 8月25日(金) 8月26日(土) 10:00~16:00
おもしろ理科実験	8月29日(火) 9:30~15:30

### スポーツ講座

講座名称	開催日
小学生のためのバレーボール教室	10月で調整中

### その他の講座

講座名称	開催日
鳥羽商船高専の練習船に乗って体験航海と造船所見学	7月27日(木)
海の仕事を知ろう! 夏休み小学生乗船体験(仮称)	7月29日(土)
みえアカデミックセミナー	8月20日(日)
練習船「鳥羽丸」の一般公開と体験航海(四日市港まつり)	8月6日(日)
みんなでたのしく遊ぼう! ロボット教室(池上地区青少年健全育成会)	10月
練習船「鳥羽丸」による大坂港150周年PR活動及び一般公開	10月26日(木)~10月30日(月)
練習船「鳥羽丸」による名古屋港PR活動及び一般公開	11月11日(土)
もうすぐクリスマス遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話	12月下旬

### 出前授業

体験型学習

講座名称	担当学科
機関士のしごと体験	商船学科
物を冷やす仕組み	商船学科
オリジナルTシャツ・バッグ作成講座	電子機械工学科・制御情報工学科
食品の加熱って? ー電気を利用したヒーターの製作ー	商船学科
LEGO ロボットを作ろう(初級)	電子機械工学科・制御情報工学科
LEGO ロボットを作ろう(機械)	電子機械工学科
LEGO ロボットを作ろう(情報)	制御情報工学科
オリジナル下敷きを作ろう!	制御情報工学科
風に向かって走る車を作ろう	商船学科
合成写真を作って遊ぼう	電子機械工学科
ヒューマノイドアニメーションを作ってみよう	電子機械工学科
3DCGを体験してみよう(初級編)	電子機械工学科
3DCGを体験してみよう(応用編)	電子機械工学科
3DCGアニメーションを体験してみよう	電子機械工学科
クリップモーターで車は走るか?	電子機械工学科

教養講座

講座名称	担当学科
トランシーバを使ってみよう	商船学科



## 編集後記



早いもので今年ももう7月です。新校長をお迎えし、3つの新組織も設置し、新しい流れが生まれつつあります。来年の大河ドラマは西郷隆盛が主人公です。明治初期はまだ国内が安定しておらず、明治10年には西南戦争がありました。そのわずか4年後に世界貿易に目を向けた本校が創立されたのは驚くべき先見の明です。本校は明治初期からグローバル人材を育成してきた伝統校であり、今後益々発展することを確信しております。(伊藤(立)記)